

平成18年度第2回食育推進会議会議録

1 日時

平成18年9月6日(水)午後1時30分から午後2時30分

2 場所

愛知県議会議事堂 5階 大会議室

3 出席者

委員29名

説明のために出席した者 農林水産部次長始め15名

4 議事の概要

(1) あいさつ：稲垣委員(愛知県食育推進会議会長代理)

本日は、皆様、大変お忙しい中、またお足元の悪い中、第2回愛知県食育推進会議に御出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、日頃は県行政の推進に当たりまして格別の御理解、御支援をいただいておりますことを厚くお礼申し上げる次第でございます。

本日、知事は他に所用があり、出席ができませんので、代わりまして私が会議の取り回し等を務めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、第1回目の会議を5月30日に開催させていただきました。その際、推進計画の作成方針につきまして、御審議、御決定をいただき、それ以降、この決定されました方針に基づき「食育推進計画検討会」におきまして、計画案の作成作業を進めてまいりました。

作成に当たりまして大羽座長さん始め食育推進計画検討会の委員の皆様方には、大変お忙しい中、また限られた中、精力的に検討いただき誠にありがとうございました。この場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げる次第でございます。

本日は、この検討会におきまして検討いただきました食育推進計画案につきまして推進会議で御審議をお願いしたいと思います。

委員の皆様方には、大変限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見をいただきますようお願いいたしますとともに、今後も本県の食育の推進に御理解と御協力をお願い申し上げます。私のあいさつとします。

(2) 会議録署名人の指名

伊藤博道委員及び小出委員を会議録署名人として指名。

(3) 議事

「愛知県食育推進計画」(案)について

【愛知県食育推進計画検討会での検討状況について】

(大羽委員：愛知県食育推進計画検討会座長)

食育推進計画検討会の座長を務めております大羽でございます。

検討会の検討状況について、お話をさせていただきます。

検討会では、第1回の食育推進会議で決定されました作成方針、すなわち、1つは、県民の皆さんに分かりやすく親しみやすいものにすること、2つ目は愛知県の特色を生かした愛知県らしい計画となるようにすること、これらを念頭に3回にわたり会議を開催し、計画案の検討を重ねてまいり、本日提案することとなりました。

計画案につきましては、分かり易く取り組み易いということを主眼に、食育を体、心、環境という三つの視点で整理しました。

目指す方向といたしまして「食を通じて健康な体をつくる」、「食を通じて豊かな心を育む」、「食を通じて環境に優しい暮らしを築く」としたところでございます。

詳しくは、事務局から説明をお願いしたいと思いますが、皆様方の御意見をいただきまして、さらに充実してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局の説明】

資料1及び資料2により「愛知県食育推進計画」(案)の概要について説明

【質疑等】

(A委員)

概要1ページの「食を通じて豊かな心を育みます」の目標について「1日1食以上、家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合」としたらどうか、楽しくということが重要。

(議長)

その方向で直させていただきたいと思います。

(B委員)

数字のことで少しお伺いしたい。本文の18ページに「8020」、80歳で20本以上についての記載がある。19ページに直近の数字として20.0%とあるが、先月の厚生労働省の発表で17年度の実態が出ており、すでに25%になっている。数字を代えておいた方がいいのではないか。

関連して、参考資料56ページの80歳20本以上の部分に目標32%以上、直近値37.4%とある。これは違うのではないかと。正しくしておいていただきたい。

32ページの年代別の取組のうち、少年期、6歳から15歳について「家族や友人と一緒に食べることの楽しさを味わう」とあるのは、友人と一緒に食べるのであれば、給食があるのだから必ず目標は達成している。家族と一緒に食べるのが大事。給食以外で小中学生が友人と一緒に食べるというのはかえってよくないのではないかと。ここをどう表現するのか。高齢者の場合はそうだと思うが。

(事務局)

8020の関係については、国の数値も含めて再度チェックさせていただきたい。

(事務局)

基本的に、「家族や友人」としているのは、中には単独世帯の方もみえるということもあって、そういう方たちは友人と一緒にということで、こういう表現にしている。ご指摘のとおり、少年期につきましては、表現を検討させていただく。

(C委員)

スローガン案について、食育はコミュニケーションが大事、思いつきだが、「食べ物は私とあなたのコミュニケーション」というに、スローガンの中に「コミュニケーション」を取り入れていただくよう希望する。

目標で、国の推進計画にプラスして肥満者を取上げている。愛知県が肥満者が多いという意味ではないと思うが、議論の経緯を説明いただきたい。

概要2ページ(右下)に「食育を広めるために」とある。栄養士会は、その上の部分の

様々な取組で関わっているが、食育をいかに広めていくかということが重要で、団体としての課題と考えている。主な働きかけの分野を見ると、地域が一番塗りが多い。地域での食育の取組が大事。その拠点として保健所、保健センター、学校、いろいろな各地域での団体があると思うが、そこが重要になる。計画とは別にその辺のところも充実を考えていただけるとありがたい。

(事務局)

肥満者については、健康日本21あいち計画の中間見直しで、20～60歳代の男性の肥満割合が、当初より数値が悪くなっていたため、目標値として設定している。

(事務局)

スローガンについては、案という形で掲げているが、今の「食べ物はあなたとわたしのコミュニケーション」という御意見も併せ、今後の検討をさせていただきたい。

食育を広めるために、としていくつかの取組の項目を掲げているが、しいて分ければこれらはほとんど地域での取組ということになる。食育は幅広い分野で幅広い方々が一緒になって取り組んでいかなければならない問題であり、ご意見を踏まえながら、今後の具体的な取り組みにはそういう視点を持って当たりたい。

(C委員)

その取組を広めるためには、地域での拠点となるところの、コーディネートをする人材が大切。市町村や保健所、学校の栄養教諭制度をもっと活かしていただきたい。本会は市町村に対し、栄養士の配置促進の陳情活動を行っている。全国の平均が67%であるが、愛知県の配置率は46%と低い(31/68)。順位では全国で32位という状態である。行政当局も市町村への配置促進にご協力いただけるとありがたい。

(事務局)

本文51ページの「栄養士・管理栄養士の研修と配置の推進」という項目でまだ配置されていない市町村については配置を推進していきますと記述させていただいている。

(議長)

スローガンについては計画を広めるためのポイントになると思っている。メールとかファックスでご意見をいただければと思う。広げる体制については今後の課題として、市町村ともいっしょになってやっていきたいと思う。

(D委員)

概要「あいちの目指す食育」の中で、いくつか数値が入っている。朝食の欠食割合をそれぞれ0%にするという目標は、非常になかった目標ではあると思うが、ただ現状の1.88%、5.4%自体がかなりやっかいな数字ではないかと思う。これをさらに0%にするということが、家庭の中でやる事なので、推進をするための、より具体的なものが必要ではないかと思う。スローガン倒れで終わる可能性のないように中身をしっかりしていただければと思う。

「8020」は愛知が発祥の地であるということで誇りとするところですが、人生80年時代で、平均寿命も80そこそこになったけれど、逆に言うと80までいかない方もいるわけで、「8020」は掲げる目標としてよろしいが、年齢の目標をもう一つ、例えば「702いくつ」とか人の生き方の中で手の届きそうなところも、せっかく「8020」の発祥地であれば、もう一つ、10才若い段階での数値目標もあっても愛知にふさわしいのではないかなと

思う。

「食育を広めるために」の目標として計画作成市町村の割合が、現在 0%でこれから作ろうということでしょうが、50%以上というのは、県下あげて取り組んでいこうという数値にしては少しおとなしい数字かなと思う。本来は 100%で、全体で足並みそろえてやろうという意気込みのものを、(50%以上という)数字で表すと非常に貧弱に見えるので、各市町村に積極的に取り組んでもらうような表現が必要になると思う。

「県や関係団体の取組」の中でそれぞれ分野が色分けしてあるが、実際、「主な働きかけの分野」ではあるけれど、よく見ていくと白くなっている箇所でも必要なところはあるのではないかという感じが見受けられる項目もある。例えば、歯の健康について啓発運動の推進というのは学校だけで済むことではないと思うし、家庭、職場でも当然関わってくる話だと思う。こういう項目はもう少し、細かに見てもいいのかなと思う。

(事務局)

市町村の計画作成の目標数値を 50%としております。これは国の基本計画で、市町村のそういう数値目標を掲げており、その数字を使っている。ただ、同じでいいのかという議論も確かにあり、また今御意見をいただきましたので、目標数値について改めて検討していきたいと思います。

分野のことですが、ここの項目の見出しと実際にやること、これは本文に書いてありますが、それがなかなかマッチしていないところもあり、項目名だけを見ると、家庭にも関わってくるのではないか、学校でも取り組むべきではないか、といった事も確かにある。もう一度精査したいと思う。

(事務局)

朝食の欠食割合について、「(健康日本 21) あいち計画」の中で 16 歳から 19 歳の数値 5.4%から 0%と目標を掲げている。「あいち計画」は、エアフィーからの提案という形で重点項目を 23 項目決めており、現在普及啓発を図っているところです。県民の皆様にも具体的な形で、朝食を食べないとどうしていけないのかという提案をさせていただいて普及啓発をしている。たしかに 0%という数字は厳しいと思うが、それに向けて努力していきたいと考えている。

「8020」について、現在 80 歳に達しない方についても、60 歳で 24 本というスローガンも出てきている。あるいは 40 歳で 26 本という形のスローガンも出てきている。そういう形で付け加えることは可能だと思うので、検討していきたいと思います。

(議長)

(取組の分野別の)色つきの部分については、私も事前に見たときに短絡的で問題があるのかなという気がしました。表現によって誤解を与えることになると思うので、もう少し検討したいと思います。

また、推進計画を作って一生懸命やるのに、市町村の作成について半分というわけにいかないの、この辺の書き方ももう少し考えたいと思う。その他の点についても検討したいと思う。

(E 委員)

現場の者の意見として、申し上げたい。平成 15 年から「輝きネット・あいちの技人」の認定を行っている。衣食住に関する勉強をして、人に教えることが出来るようになった

人たちを毎年認定しているが、現在 100 名程おり、学校やお母さんたちのところへ行って料理教室や食農教育（農業体験活動等）を行っている。目標とする数字がどうこうということではなく、それ以前にもっと大切なこととして思うのは、子どもたちは食べ物の旬を知らない、という実態がある。たとえば研究会で「はくさい」や「だいこん」について立派な発表をしてくれたが、いつ種を蒔くか、いつ収穫できるのかということを知らない子どもばかりだった。

私たちの年代の者にとって、「いただきます」「ごちそうさま」は当たり前のことで、計画に書かれることに驚くが、現場に行ってみて、やはりそういう形があると思う。

また、サトイモの煮付けを出すと、（子どもたちは）こんなにおいしいのかと驚く。家で作ってもらえない理由をきくと、これは洗うと手が痒くなるからお母さんが料理してくれない（という答え）。こういうお母さんが多い。

核家族化の影響と思うが、なるべく早くできるもの、簡単にできるもの、子どもが欲しいものを（食べさせる）という教育がされているということはこの目で見えてきた。お母さんたちが野菜を使わないということは農業をやる者にとって悲しい問題と思う。

母子手帳をもらった時から母親になる気持ちをもってほしい。核家族が多くなった今ではお母さん一人で子どもを育てられない世の中になっている。そういうお母さんたちに食べ物の大切さを、子どもたちのためにどうしたらいいかということを考えてもらいたい。計画の中にはそういう言葉がなく、子どもに、子どもに、ということばかりということが、現場の人間としては少しいけない。

今後、学校教育やいろいろな場面でこういうことを伝えることになると思うが、まずは、食べ物を母親の手から、両親の手からもらうということが、子どもを明るく和やかにさせるのではないか、ということを感じている。

（事務局）

小さな子どもに朝食を食べさせない親がいるということ、本当に残念なことと思う。子どもへの取組は、親がしっかりしないと始まらない。子どもにはまったく責任がない。どのように親御さんたちにしっかり理解し、認識していただくかということが、大変重要なテーマであると思っている。

輝きネットの皆さんには「あいちの技人」として、子どもたちや地域の方々のいろいろな体験活動に対し、御活躍いただいております。本文 52 ページにも記述させていただいているように、私どもも皆さん方の活躍に御期待申し上げ、また支援もさせていただきたいと考えている。食育基本法でも、農林水産業関係者に期待されている一番大きな点はここにある。体験に勝るものはない。たとえばバケツ稲作のようなものでも、実際にやってみて命の大切さというものを理解してもらえればと思う。体験活動は重要と考えており、計画案の中でも触れている。

（F 委員）

朝食の欠食割合について、小学生の数値目標、16 歳～19 歳の数値目標の間の 13、14、15 歳の中学生が抜けているがなぜか。また、小学生の 1・88% という数字が何を根拠にしたものなのか、現場にいる感覚からするともう少し高いのかなと。先日見たテレビによると朝食でもチョコレートだけで朝食だと、また牛乳だけ飲まして朝食だといったような数字もこの中に入っているような気がする。朝食の定義のようなものをき

ちんと整理して、調べる側と書く側で朝食の認識が全く違えば、違う数字が出てきてしまうと思うので、どのような形でこの数字がでているかお聞きしたい。

(事務局)

朝食の欠食割合についてですが、計画(案)の19ページの小学生と16歳~19歳については、括弧をつけ、置き換えを予定している。今年度、今の愛知県の子どもの現状をきちっと把握すべきだということで教育委員会のほうで調査をしている。小学校の2年生と5年生、中学2年生、高校生を(対象に)やっている。今資料1で出ている数字は置き換わる。また、御指摘のとおり、まさに朝食の中身が問題であって、ただ数字だけで追うのはどうかということについては、実はそのように考えている。例えば今、1.88と出ているが、この数字は変わりますが、これを0にすると、数字の流れだけでしか見えない。中身が大切だということがある。0は目標であり、かなり難しいと思うが、食べる内容をよくしたいというのが一番の目標です。数字の上でそれを現すことは難しいし、実際の調査に当たってもごはんを食べていますかというところでしか今調査ができていないので、数字から中身を見ることはできないが、食育を進めていく中では中身の重要性を訴えていきたいと、また改善を図りたいと考えている。

(G委員)

年に1度はシンポジウムを開催し、食に関することを大々的にやっている。また統一事業として、今年度は食育について(アンケートに)取り組んで、回答を見ますと、やはり欠食という現状はある。今後(朝食の欠食について)どのようにしていくかということで、小グループにより「元気が出る朝食運動」ということで、5名のリーダーが中心になって活動しています。

お母様方には、「朝食抜きで1日の生活を始めるということは、おなべを空焚きするようなもので大変危険だ」と、「まっさらな朝は朝食で目覚めてエネルギーややる気を出す元にしてください」、ということをしっかり申し上げます。そして朝食作りは3S、(つまり)スイート、スピード、セーフティ、のうちのスピードというのは、決して手抜きをすることではなく、前日から翌日は何を食べさせようかと、そのくらいの気持ちは持ってほしいということをおっしゃいます。

また、朝は体温、血糖値が低くなっているのだから、安定した状態にするには朝食が一番大事である、できることなら朝からバランスを考えて、ということをおっしゃいます。

現在アンケートを実施中で、回答の集計は進んでおりませんが、それを見ると三世同居が大変少ない。地元の東三河でもかなり低く、朝は父親は出勤が早い、学童は一人で食事を食べる、母は近くにいるが赤ちゃんに手がかかり、なかなか学童に手が回らないという核家族の方の意見を多数いただいています。私たちも今後どのようにして(協力できるか)それらの方たちの応援や力になれることがあったらと思います。そして働いているお母さん方は既製品とか中食というものを購入しますが、既製品は悪いとは申しませんが、トレーがお皿と思っている方が多い。せめて陶器の器にのせて、周囲を飾って見栄えぐらいはよくしてあげましょうね、という運動を始めています。また、こういういいことをお聞きしましたので、今後、私どもは何を目指していったらいいかという指針にさせていただき、この計画が早くできればいいなと思っています。

(議長)

他にまだ御意見あると思いますが、時間がまいりましたので、お聞きすることができなかつた委員の方もたくさんいらっしゃると思いますが、ぜひメールやファックスで御意見をいただけるとありがたいと思いますのでよろしくお願いします。

今日いただいた意見、メールやファックスでいただいた意見を踏まえて整理させていただき、案を取りまとめ、今月下旬にパブリックコメントをかけ、県民の方々の意見も広く聞いていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員、異議なく了承)

(議長)

それでは、そういう形で進めさせていただき、また御意見をいただくことになろうかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

これで本日の議事は終了いたしました。委員の皆様には御協力いただきありがとうございました。